

第19回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日時】 令和元年12月12日（木） 14:00～16:05

【場所】 軽井沢発地市庭 イベントスペース

【出席者】 基本会議委員：市村初仁委員、鈴木幹一委員、須永久委員、
中嶋聞多委員、貫名礼恵委員、藤井俊子委員、
石山武委員、高尾幸男委員、青木健太郎委員、
上原梓委員、佐藤一貴委員、森憲之委員、
柳澤陽平委員

内 容

1. 開 会

【導入】

ファシリテーター

先日中国を訪れた際に、民主主義や働き方改革というキーワードが聞こえてきた。風土フォーラムは、真の民主主義やテクノロジーの導入など、時代を先取りした取り組みをしていると改めて感じた。

2. 会長あいさつ

○ファシリテーターによる進行

会長

10月30日に中軽井沢くっかけテラスで実施された「まちづくり防災講演会」に参加した。この講演会では、テクノロジーの活用や住民自治を活かした防災をテーマに活発な議論をしていた。コミュニティ共創

プロジェクトチームでも、防災について取り組んでいただき、皆さんの意識も高まりつつあると思う。

第2期基本会議の基本方針として、Society 5.0を意識したまちづくりを進めたいと提案した。Societyは、狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)と進化し、現在は人間中心の社会(Society 5.0)にある。IoT(Internet of Things)の略で、インターネットを活用して色々なモノが繋がる事により、相互に制御する仕組み)時代とも言われ、テクノロジーを使い、企業も地方自治体も合理的に動いている。私たちがまちづくりを実施する立場において、Society 5.0を意識しながら風土フォーラムの活動を進めていただきたい。

3. 議 事

(1) 各プロジェクトチーム(以下、PTという。)の活動状況及び方向性について

【コミュニティ共創PT】

○コミュニティ共創PT座長より、コミュニティ共創PTの活動状況及び方向性について説明

◆令和元年11月18日(月)大日向公民館にて大日向地区自主防災会及びソフトバンク(株)CSR統括部との意見交換をした。

・大日向地区と共に「防災に関するシンポジウムの開催」及び「スマートフォンを活用した社会実験の実施」について協議した結果、当初予定していたスケジュール(令和元年度内にシンポジウムの開催を予定。)からは遅れるが、焦らずそれぞれの考えを共有したうえで、今後の進め方を検討していく事とした。

・軽井沢町が締結している信州大学(信大)、東京大学(東大)との包括的連携に関する協定に基づき、信大の地域防災減災センターに、基本会議会長名で協力いただくための依頼をしたい。基本会議委員の皆さんにお諮りしたい。

【意見交換】（発言順）

A委員（コミュニティ共創PT構成員）

大日向地区には ISAK（学校法人ユナイテッド・ワールド・カレッジ ISAK ジャパン）もあるので、連携を図りながら進めていければよい。

B委員

軽井沢町が信大と包括的連携協定を結んでいるので、町としても信大へお願いする準備をしている。

C委員

包括的連携協定として進める内容は、防災に関する仕組みづくりと理解してよいのか。

座長（コミュニティ共創PT）

包括的連携協定には色々な分野があるが、今回は防災というテーマで地域防災減災センターへ依頼したい。

B委員

信大・東大との連携協定では、少子高齢化等の全国各地で起きている問題ではなく、軽井沢町が独自に抱える課題を解決するための6つのテーマが設定されており、今回は防災についてお願いする。

C委員

交通関連PTが、包括的連携協定に基づきお願いすることも出来るのか。

B委員

連携協定のテーマの一つに、渋滞に関する内容も含まれている。議会内から、風土フォーラムも包括的連携協定に基づいて何か取り組めないかという質問もあったので、協力できる機会があればお願いしたい。

ファシリテーター

地域の課題について、行政や政治だけで解決するのは難しい時代なので、協定の関係を生かせるとよい。

D委員

地域住民からは、防災に取り組むにあたり地域のコミュニティが必要という理解は得られているのか。また、住民を巻き込んでいるのか。

座長（コミュニティ共創P T）

地域住民と協議を始めた頃は距離を感じていたが、住民と同じ目線で話をするように心がけ会議を重ねてきた。正直どこまで住民を巻き込んでいるのか分からないが、皆さんの理解は得られつつあると思う。社会実験については、企業や信大の地域防災減災センターに協力を申し入れたうえで実施したい。

D委員

初めて聞く人には、「Society 5.0」や「コミュニティ共創」という言葉は分かりにくく、親しみを持ちづらい。私たちは風土自治を目指しているので、難しい言葉をかみ砕いて説明していく必要がある。

会長

P Tの名称も、防災P Tとすれば目的も分かりやすいが、あえてコミュニティ共創P Tとした。当初、第2期基本会議では、防災、テレワーク、文化継承、コンパクトシティ、ウェルネスを具体的なテーマに掲げ、これらの課題についてコミュニティを深めながら解決したいという思いがあったからである。しかし、ご指摘のとおりネーミングなどが分かりづらい部分もあるので、次回以降はもっと分かりやすいように話したい。

ファシリテーター

具体的な手続きについては事務局と相談することとして、中嶋座長より提案された、連携協定に基づき信大に協力要請する事について異議はないか。

（異議なしのため、承認された。）

【交通関連P T】

○交通関連P T座長より、交通関連P Tの活動状況及び方向性について説明

◆第18回基本会議以降、2回のP Tを開催し、交通事業者（バス・タクシー事業者）から交通渋滞に関する実態などについてのヒアリングを実施した。

・交通事業者からは、渋滞解消に向けた対策は企業努力だけでは難しい

ので、観光地を巡るシャトルバスの運行、課金制度、町内への車の流入規制などの大胆な施策に期待しているとの意見があった。また、新軽井沢エリアデザインの具現化にも期待する声があった。

◆今後の活動方針

- ・今年度中に後 1、2 回会議を開催し、今期のまとめとして議論の材料、ニーズなどを盛り込んだ提言書を作成したい。
- ・現在までに交通渋滞に関する実態はある程度掴めたが、対策の絞り込み、軽井沢らしい快適な移動に関する具体的な対策は考えられていない。大学との連携や民間の協力も仰ぎながら、来年度以降の活動に繋げていきたい。

【意見交換】（発言順）

E 委員（交通関連 P T 構成員）

ヒアリングを行う前までは、繁忙期のバスやタクシーの台数不足については単純に増便すれば解決するのではないかと考えていたが、タクシーの営業区域が決められていることやバス会社は国土交通省へ運行計画の提出等が必要であり簡単には解決できない事を知った。

座長（交通関連 P T）

人材不足、台数不足などの課題やニーズは、自動運転やライドシェアなどの具体的な施策に繋げていける。それをどう実現させていくのかが交通関連 P T の大きな役割になる。

D 委員（交通関連 P T 構成員）

交通事業者からのヒアリングを実施するまでは、楽観的に考えていた事が実際は法的な制限などにより交通事業者が単独で動く事が難しい状況にあると認識した。交通事業者は、ハード面の整備や町での対応を訴えていた。長期的な取り組みとして、新軽井沢エリアデザインの動きに反映できるとよい。短期的な取り組みの例として、軽井沢での運転マナーの向上を皆さんに意識づけする事などがあげられると思う。住民の皆さんは直ぐにでも解決してほしいという思いが強い中、将来を見据えた取り組みと共に、直ぐに取り組めることと併せて実施でき

ばよい。

会長

2023 年春に北陸新幹線が福井県まで延伸予定のため、JRのダイヤ改正時にいかに新幹線で軽井沢を訪れる人を増やすことができるかだ
と思う。

【チームみらいえPT】

○チームみらいえPT座長より、チームみらいえPTの活動状況及び方向性
について説明

◆令和元年10月20日(日)「レゴブロックを使って、中軽井沢の未来を
考えよう！」を実施

・現在の中軽井沢の様子を知るためにまち歩きを行い、20年後の中軽井
沢に「あったらいいなと思うもの」をレゴブロックで表現してもらっ
た。児童10名、保護者2名の参加があった。

◆令和元年12月11日(水)から12月25日(水)まで、中軽井沢くっか
けテラスにおいて、「レゴブロックを使って、中軽井沢の未来を考えよ
う！」イベント時の写真を中心とした展示会を開催。

【意見交換】(発言順)

F委員

参加した児童10名の学年構成を知りたい。

座長(チームみらいえPT)

6年生1名、4年生2名、3年生4名、2年生1名、1年生2名。

G委員

中軽井沢のくっかけテラスに展示した理由を知りたい。

座長(チームみらいえPT)

くっかけテラスは、図書館や駅前のイルミネーションにより人が集
まる場所である事と、展示のメインが「レゴブロックを使って、中軽井
沢の未来を考えよう！」のイベントだったので、中軽井沢にあるくっか
けテラスを選んだ。

G委員

他のPTでも、一般の人に活動を知っていただく機会があるとよい。

D委員

子どもたちは、レゴブロックを使ってどんな作品を作ったのか。

座長（チームみらいえPT）

個人作品には、亡くなった人を天国へ運ぶ自動運転の車、動物と仲良くなれるスペースなどがあった。個人の作品を合わせて作った町並みには、人がたくさん配置されていた。ぜひ、くっかけテラスに足を運んで見ていただきたい。

(2) エリアデザイン検討の進捗について

○ファシリテーターより、エリアデザイン検討の進捗について説明

◆エリアデザイン検討の概要

- ・自走して各エリアデザインの在り方を協議・検討する組織づくりを行う。また、住民の意見を集約し、各エリアデザインへ適宜フィードバックする。

◆エリアデザイン検討の枠組み

- ・多様な意見を集約する「地域会議」と、地域会議を運営していくための「運営会議」の2つの会議により構成する。

◆エリアデザインの進捗状況

- ・今年度は「新軽井沢エリア運営会議」「中軽井沢エリア運営会議」が発足した。来年度以降、他の3エリアでも「運営会議」を立ち上げる予定。

【意見交換】（発言順）

C委員

エリアデザイン検討には、期限を設けているのか。

ファシリテーター

各運営会議メンバーの考え方次第である。企業などの組織であれば期限を設ける必要もあるが、エリアデザインの検討は住民自治で進め

るため、ゴールよりもプロセスが重要となる。

事務局

軽井沢グランドデザインの中で示している5つのエリアのうち、2つのエリアを先行して進めている。追って、来年度以降に他の3エリアも動かしていく予定である。令和2年度末頃には、軽井沢町都市計画マスタープランの見直しに向けた動きがある。エリアデザインの動きで軽井沢町都市計画マスタープランの見直しに繋がられる内容もある。

P Tについては、期限を設けると弊害もあるので、現段階では期限を区切るつもりはないが、座長と相談しながら決めていきたい。

(3) 自治体におけるテクノロジーの活用事例について

○ファシリテーターより、自治体におけるテクノロジーの活用事例について説明

◆自治体におけるテクノロジー活用事例

- ・茨城県つくば市：R P Aを導入した定型的で膨大な業務プロセスの自動化。
- ・愛知県西予市：オフィス改革事例。
- ・東京都渋谷区：基本構想「ちがいをちからに変える街。渋谷区」に基づいた区政運営改革の一環とした、急速なデジタルトランスフォーメーション（D X）の推進。
- ・新潟県長岡市：M a a S領域でのタクシー相乗りマッチングアプリ「nearM e .」を活用した実証実験。

(4) 来年度以降の風土フォーラムの方向性について

会長

一般企業は、デジタルトランスフォーメーション（D X）やテクノロジーを活用して激変している。この背景には、日本が世界的な経済力を失い、挽回しようとする政府の意向がある。これを踏まえ、まちづくりに携わる皆さんから活発な意見をいただきたい。

【意見交換】（発言順）

H委員

今後のP Tにおいて自由度の高い活動推進体制とするため、各P Tの座長に裁量権を移譲できないか。具体的には、座長の判断で計画を実行する事や事業予算をある程度座長に預けていただくなどの権限を与えていただければと考えている。

ファシリテーター

今の意見を踏まえ、各P Tの座長で感じている事があれば伺いたい。

座長（交通関連P T）

新しい事を始める時に、行政には法律的な面や配慮が必要となり、少し窮屈と感じる事もある。もう少し民間的な発想で動けると、物事がスムーズに動くのかも知れない。だが、税金を使うとそれなりの手続きも必要だし、今のところ行政として動ける範囲で配慮はさせていただいている。

座長（コミュニティ共創）

コミュニティ共創P Tの活動をする中で、特に資金面では何度も壁にぶつかっているのも、もし改善できるのであればお願いしたい。

I委員

組織を運営するには、ある程度権限がないと難しい部分もある。スムーズな運営ができる体制づくりが出来るよう町でも検討をお願いしたい。

J委員

各座長に予算を預けるという提案については、公金は地方自治法などの関係上、町だけで判断する事が難しい部分もある。しかし、私たちが自走するには資金の問題は必ず出てくる事なので、町に頼らず自分たちで口座を作り資金を集めるなど、私たち自身で考え出していく必要がある。

○傍聴人からの意見

傍聴人

住民主体の会議については、多くの人に興味や関心を持ってもらうのが基本だと思う。中軽井沢運営会議のメンバーを見ると、区長や議員など行政の代表と呼べるような人が選ばれているが、本来は本当に地域をよくしたいと考える人がメンバーになるべきではないか。メンバーに、地域を変えたいという意欲があるのか知りたい。

ファシリテーター

体感としては、地域をよくしたいという意欲にあふれる人がファシリテーターとなり、その思いがメンバーにも広がっているように思う。これからどう育てていくかが大事である。

4. 事務連絡

○事務局より連絡事項と配布資料について

【連絡事項】

- ・風土フォーラム事務局の閉鎖について

【連絡事項】

- ・風土フォーラム事務局に寄せられた意見等一覧
- ・軽井沢 22 世紀風土フォーラム通信
「軽いざわざわ 2019 夏 VOL. 9、2019 冬 VOL. 10」

5. 閉 会